2023

Community Collaboration Center AS
コミュニティ・コラボレーションセンター

CCC
活動報告書

愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター

コミュニティ・コラボレーションセンター（CCC）とは

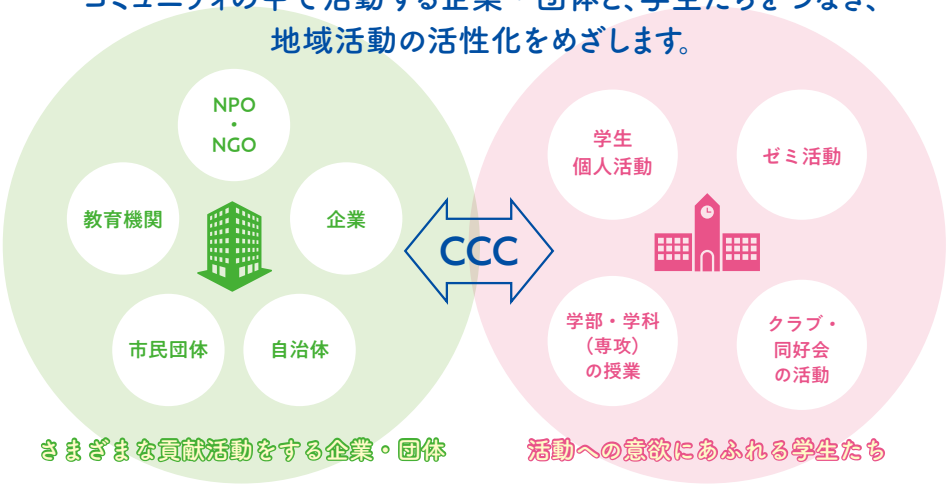
愛知淑徳大学の理念「違いを共に生きる」に込められた思いを受け継ぐコミュニティ・コラボレーションセンター（CCC）は、「地域に根ざし、世界に開く」という姿勢で、学生の実践力を育む「教育」と、学生の自主活動を支える「支援」に取り組んでいます。

学生一人ひとり、輝く個性や未来を拓く力を持っています。その大きなパワーを地域での「体験」や「実感」を通して引き出すのが、CCCの役割。学生のさまざまなコミュニティと連携を強め、地域社会と大学の活性化を図ること、そして、これから社会へ羽ばたく学生たちの視野を広げ、人間力や社会に貢献できる人材になるための力、生きる力を育むことをめざしています。

CCCから地域、社会、世界へ飛び出した学生は、さまざまな人と交流を深めながら共に活動し、「違いを共に生きる」社会の実現に向けた新たな風を次々と起こしています。

CCCの役割

コミュニティの中で活動する企業・団体と、学生たちをつなぎ、地域活動の活性化をめざします。



CCCの特色

1 「地域や社会に貢献したい」という思いに応える教育カリキュラム

CCCでは、企業やNPOが実際に抱える課題をグループで解決していくPBL（課題解決）型授業、ボランティア活動やまちづくりに関する基礎知識を学ぶ講義型授業などを通して社会貢献活動について学びます。

2 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

地域の行政機関、企業、NPOなどからボランティアの募集情報が届きます。CCCでは、学生の思いに耳を傾け、それに合わせたボランティア活動を紹介・支援しています。

3 学生が企画・運営する地域活動をサポート

CCCでは、地域での課題を自ら発見し、それらを解決するために、数多くの学生団体が活躍しています。活動に行き詰まった場合は、CCCスタッフが寄り添い、一緒に課題の解決を目指します。

CCCで提供していること／もの

自分の関心と結びつける きっかけをつくる

やってみる、動く、失敗、成功する

行動からの変化・経験の意味付け、言語化

PDCAサイクルを回す中で、自分のやりたいことを明確化

受け身

小さいアクション

意味づけ

PDCA

アウトプット アウトカム

知る
▶基幹科目、セミナー、講座
具体例
・ちょこっとボランティア▶5へ
・コラボメッセ▶6へ
・カリキュラム▶11へ

見る
▶参加型ボランティア参加、CCC 開設科目
具体例
・佐久島黒壁運動ボランティア▶15へ
・ワールド・コラボ・フェスタ運営ボランティア▶15へ

考える
▶継続ボランティア　学生団体に所属して活動
具体例
・デイサービスセンターゴジカラ村での交流ボランティア▶15へ
・まちかど保健室ボランティア▶15へ

企てる
▶企画系ボランティア
学生団体に所属して活動
具体例
・企業、行政、NPO・市民団体との連携▶16－20へ

変える
▶チャレンジファンド団体設立
具体例
チャレンジファンド▶21へ

学生たちは、大学に入学するまでにさまざまな経験をしています。その体験や経験をヒアリングし、彼らの今後の「自分らしさ」を共に探りながら、将来のなりたい自分にSTEP UPしていく流れを支えています。

学生自身が、この次のステップをさまざまなプログラムから選ぶこと、また創り出すことができるよう対話や活動をおこないます。この流れを行き来する中で、学生たちは「生きるチカラ」を自分のモノにします。

「知識」「知恵」「体験」を備えて

「知ること（知識）」は、「行動」を起こす原点です。外部からの情報をさまざまな形で取り入れます。「見る」ことで、よりリアルを受け取ります。「知識」は外部からですが「知恵」は自分の中で創り出す力。問題に応じて知識を活かすことができる「知恵」を身につけます。「知恵」を活用して考え、企画したことを実践し「体験」してみる。覚えた知識を語るよりも体験して得たものは、人からの「共感」を呼び、仲間が増え、自分を、社会をCHANGEさせます。

目　次

① 2023年度　センター主催事業

1.1 ちょこっとボランティア講座リレー …… 5

1.2 コラボメッセ …… 6・7

1.3 学部との連携事業『ただいま、つなかん』上映会 …… 8

② 2023年度　活動実績 …… 9

③ 学生育成 …… 10

3.1 学生育成ビジョン …… 10

3.2 教育（カリキュラム） …… 11・12・13

3.3 学生への支援 …… 14

(1) 参加型ボランティア …… 15

(2) 企画型ボランティア
（学外団体との連携プログラム） … 16・17・18・19・20

(3) チャレンジファンド …… 21

④ 学生スタッフの活動 …… 22

⑤ 2023年度　全体講評 …… 23

⑥ 初めてボランティアを募集される方へ …… 23

Information

2016年２月
「CCC labo」開設

本書にて紹介しきれなかった学生たちの活動の様子を、特設サイト「CCC labo」にて発信しています。
ぜひご覧ください。

◀QRコードまたは
CCC labo nagoya
で検索！

みんなの笑顔で、地域を変えよう！
活動の様子を絶賛公開中！

1 2023年度 センター主催事業

1.1 ちょこっとボランティア講座リレー

CCCでは、「ちょこっとボランティア講座リレー」と題して、ボランティアや社会貢献についての理解が深まるように、各方面でご活躍されている方を講師としてお呼びし、お話を聞く会を開催しました。
普段、なかなかお話を聞くことのできない貴重な内容で、学生それぞれの心に響いたと思います。これをきっかけに、行動につながると嬉しいです。

● 講座一覧 ●

6月21日
山里カフェMui　清水様

テーマ

近年、猪や鹿などの野生動物が農作物を食べてしまう被害が深刻化しています。加えて、捕獲された野生動物の約９割が食べられずに廃棄されています。あまり知られていませんが、ジビエ肉は美味しくて栄養価も高いです。そんな知られざるジビエの魅力を伺います。

7月11日
NPO法人じゃんぐるじむ　竹内様

テーマ

放課後デイサービスなどを運営されている竹内様。障がいのある子どもの特徴、対応方法をお伝え頂きました。また、障がいのある子どもたちも安心して暮らすことのできる社会について、自身の体験と共に想いをお伺いしました。

7月12日
三州しし森社中　竹尾様

テーマ

近年、農作物を荒らす猪や鹿が人間の手により駆除されています。しかし、その約９割が処分されているという現状があります。そこで今回は、里山にしかない資源として皮・骨・角の活用に注目し、フリーランスで鹿角のアクセサリー・トロフィー・シャンデリア・レザー製品・毛皮製品の開発の取組みを伺います。

10月19日
株式会社クラタペッパー　倉田様

テーマ

長年続いた内戦で消滅の危機に瀕していたカンボジアの伝統的な胡椒を復活させ、世界に広めた立役者である倉田様。胡椒作りを通じて、現地の人と共に復興への歩みに寄り添われています。これまでの歩み、そして倉田様からみたカンボジアのことや想いなどを伺います。

11月7日
日本電動車椅子サッカー協会　浅野様

テーマ

体に障がいがあっても、自由に走り回れなくても、指で車いすを操作すればサッカーができます。愛知県での仕掛け人であり、世界大会にも同行してきた浅野様。選手を支えるため、これからの社会・未来に向けて電動車いすサッカーが世の中で広く受け入れられるための取組みや熱意を伺います。

11月15日
社会福祉法人AJU自立の家マイライフ刈谷 元所長　佐藤様

テーマ

障がいがある人たちが自分らしく生きられるようにと活動を続ける卒業生の佐藤さん。生まれつき筋ジストロフィーという障がいがあり、簡単に言うと筋肉がつくれないために小学校５年生から車いすユーザーになり、ほぼ全ての事に介助が必要で常時ヘルパーを利用して一人暮らしをされています。自分がやれることを精一杯おこない続ける佐藤さんから自伝的なお話を伺います。

12月21日
三菱自動車工業株式会社　伊藤様

テーマ

愛知県主催「あいちITS大学セミナー」の一環として、三菱自動車工業株式会社様からお話を伺いました。自動運転がどういう仕組みかご存じですか？自動車運転について講義をお聞きするセミナーをおこないます。普段運転する人もしない人も、交通安全について考えることができます。

1月25日
社会福祉法人名古屋ライトハウス　寺西様

テーマ

盲導犬と共に日々、さまざまなところで活動している寺西様。家族と共に楽しく過ごす日常を伺います。視覚障がいがハンデであるのか、そうでないのかを考える機会になったり、寺西様のお話から自分の生き方自体も振り返りたくなります。

1.2 コラボメッセ

2023年12月17日(日)に、行政機関、企業、NPOなど(以下、CCC連携団体)の皆様と一堂に会する第９回「コラボメッセ」をおこないました。今年は67団体313人が集まり、にぎやかで有意義な時間を過ごすことができました。

第１部　講演「高校チュータイ外交官と考える日本と世界のこれから」

第１部では、外交官の島根玲子氏による特別講演が２号館の記念講堂でおこなわれました。テーマは「高校チュータイ外交官と考える日本と世界のこれから」。島根氏は高校時代に２度の留年と中退を経験しながらも、大学に進学し、司法試験にも合格。外務省入省後は伊勢志摩サミット、中南米外交、アジア外交などを務めています。ご自身のプロフィール紹介の後、島根氏は本題である「日本と世界の今・これから」についてデータも活用しながら世界における日本の国力について、わかりやすくお話ししてくださいました。講演の締めくくりでは、若い世代に向けて「世界に羽ばたこう！」とメッセージ。「私たち一人ひとりが世界の人々に優しく親切にする、その積み重ねが国際社会における日本への信頼につながります。皆さん一人ひとりが外交官です。ぜひ世界に羽ばたいて自分の可能性を広げてください」と島根氏は学生たちに力強く語りかけられました。

第２部　活動発表ブース出展

学生団体28団体、行政機関、企業、NPO、学外学生団体の皆様39団体ほどがブース出展し、交流しました。それぞれが普段から取り組んでいる社会貢献やSDGsにつながる活動について紹介をしました。さまざまなブースをまわり、メモを取りながら積極的に交流していた学生たち。新たなチャレンジへの第一歩となるだけでなく、課題解決に向けた新しいアイデアや行動に結びつく意見交換の場となりました。

参加学生の声

他団体との交流を深められるのがコラボメッセの醍醐味です。子どもの居場所づくりやフードロス削減など、さまざまな学生団体がある中で、里山で起きている問題という共通の話題に取り組んでいる、学生団体のメンバーと話すことができました。地域の現状や取り組みの成果を共有する中で、地域貢献の意義や自分が取り組んでいる活動の目的を改めて確認できました。また、企業とのコラボレーションを通じて活動の幅を広げている学生団体にも刺激を受け、地元のつながりや他団体と協力したプロジェクトのアイデアを見つけることができました。

交流文化学部　４年　鴻巣　真里華

連携先様からの感想

毎年楽しみにしているコラボメッセにお声かけいただきうれしかったです。講演会では「私たちも、冬青珈琲店（NPO法人楽歩様が経営されている店舗）にいらっしゃる海外のお客様の外交官なのだ」「一人ひとりに日本の良さを感じていただける場所になるね」と身近な気づきをお土産にいただきました。当日の会場は、とてもにぎやかでいつもの温かい空気に包まれていて、ボランティア（誰かの幸せを一緒に）の意味を改めて感じることのできる大切な時間となりました。ブースでは、学生さんの熱量に圧倒されたり、あたたかい気持ちになったりと、一緒にコラボレーションをしてみたいと思うチームもありました。これからも一緒に学び、成長させていただければと思っています。素敵なコラボメッセでした。今後ともよろしくお願いいたします。

NPO法人楽歩　副理事長　大原　由恵

参加学生団体

ASU element project、Change、Fsus4、Na-Gomi、NAO、tASUkeai、あじゅあす、アミーゴ、エコのつぼみ、エシカルTeam、エネAS、きらきら☆したら、コミュカフェ、こめ☆こめくらぶ、しゅくぐる、障がい学生支援活動団体あすてく、ロスゼロチーム、そとそと、チームわんわん、名古屋コーチンもりあげ隊、なごやであそび隊、パスレル、ベトナム日本語教室、防災チーム、PERILLA：ポレラ、みっくすじゅーす、らぶ・（てん）、らぶ♡やお

参加団体・学外学生団体

トヨタ自動車（JDRトヨタ）、JTB、愛知県国際交流協会、アサヒ飲料、アジア保健研修所（AHI）、アスクネット、草の根ささえあいプロジェクト、クラタペッパー、コカ・コーラボトラーズジャパン、こどもNPO、敷島製パン、名古屋市障害者スポーツセンター、瀬戸信用金庫、チェルノブイリ救援・中部、千種区社会福祉協議会、豊田市青少年センター、豊田市、長久手市 地域共生推進課、名古屋NGOセンター、名古屋市社会福祉協議会、名古屋市市民活動推進センター、なごや環境大学、西尾市 佐久島振興課、日進市 市民協働課、ぷくぷくばるーん、ボラみみより情報局、名東区社会福祉協議会、ヤクルト東海、楽歩、アジア車いす交流センター、レスキューストックヤード（法人名省略）

FIWC東海、musbun（椙山女学園大学）、Hand in Hand（名古屋市総務局）、愛知学院大学ボランティアセンター、AIVO（愛知大学）、生物多様性あいち学生プロジェクト（GAIA）、名城大学、東海SIVIO

URL https://www.aasa.ac.jp/live/interaction/008739.html

1.3 CCC×交流文化学部 共同特別企画

東日本大震災に学ぶ！私たちの防災！

映画『ただいま、つなかん』上映会＋パネルディスカッション

2024年１月20日(土)、本学のCCC(コミュニティ・コラボレーションセンター)と交流文化学部による共同特別企画「東日本大震災に学ぶ！私たちの防災～映画『ただいま、つなかん』上映会＋パネルディスカッション～」がおこなわれました。

※日本財団ボランティアセンターとCCCは協定を結んでいます

映画「ただいま、つなかん」は宮城県気仙沼市唐桑半島にある民宿の女将を10年以上にわたって取材したテレビ報道発のドキュメンタリー。東日本大震災当時、自宅を学生ボランティアの拠点として開放し、民宿「つなかん」を開業した菅野夫妻を中心に、元ボランティアの若者たちとの交流などを描いています。

上映に先立ち、交流文化学部交流文化学科の林大策先生は2024年１月１日に発生した令和６年能登半島地震についてふれ、甚大な被害を受けた石川県珠洲市に派遣された災害派遣医療チームから伺った事例を紹介しました。

上映後は、CCC学生団体「なごやであそび隊」、「防災チーム」、交流文化学部気仙沼フィールドスタディ参加学生が登壇し、自らが取り組んでいる活動の紹介をして、災害や防災について意見を交わしました。

パネルディスカッションには、映画に登場した唐桑御殿つなかんの女将・菅野一代さん、鶴亀の湯・鶴亀食堂の根岸えまさんもオンラインで登壇しており、「防災意識を高める活動はとてもすばらしいこと。震災当時も学生の力は何物にも代えられない、生きる力になったので、ぜひこれからも続けてほしい」と語りました。

参加学生の声

私も小学校の時に、福島県福島市で東日本大震災を経験しています。震災の後にあった原発事故での放射能の影響で愛知県に広域避難という形で避難をしてきて、今も愛知県に住んでいます。これまでの12年間、自分が経験してきたことは話したくないな、知られたくないなと思っていた時期もあったのですが、高校生の時に自分の経験をお話するという機会がありました。その時にお話を聞いてくれていた方の感想から、多くの人が震災について知りたいと思ってくれているんだなと感じられたこと、そして、自分自身も東日本大震災を無かったことにしてはいけないんだという気持ちが強くなっていったので、経験を伝える活動を少しずつするようになりました。

経験をお話するときは、被災状況や私の今までの経験をメインに伝えることが多かったのですが、今は、自分が被災した時に感じた人と人とのつながりや、地域や人のあたたかさについても大事なこととしてお伝えするようにしています。

みんなが大変な時なのに、人と人がお互いを思いやり、助け合って生活をしている様子は、小学1年生だったけど今でも鮮明に覚えていて、そのことは実際にその場にいたわたしだから伝えられるのではないかと思っています。

本日観た「つなかん」は今お話した人と人とのつながりやあたたかさを特に感じられる映画で、見た人にたくさんのパワーを与えてくれる映画だと思います。もっとこの映画を多くの人に見てほしいなと思っています。

これからも私の声も一緒に、東日本大震災をなかったことにしないために、みんなとたくさん一緒に考えながら、なごやであそび隊の活動をしていきたいと思います。

福祉貢献学部　2年　佐藤　らら

URL　https://www.aasa.ac.jp/live/pursuit/008858.html

② 2023年度 コミュニティ・コラボレーションセンター 活動実績

利用状況

CCC登録者人数	348人
利用者数	延べ11,082人

ボランティアへの参加者数（分野別）

※…2022年度活動実績数

	国際交流・協力	青少年育成	まちづくり	福祉	環境	震災支援・防災	学生団体	SDGs	その他	計
活動人数	124	135	67	190	87	20	637	48	179	1,487
	243※	225※	15※	120※	99※	17※	693※	50※	201※	1,663
オンラインなど対面以外の活動	107	40	0	0	0	0	0	0	0	147
	164※	4※	0※	0※	0※	0※	9※	0※	0※	177

産学官連携事業

●愛知県との連携
かがやけ☆あいちサスティナ研究員として本学学生が参加

受託事業

●長久手市大学連携『長久手市大学連携推進ビジョン4U』（委託者：長久手市）

●大学連携講座『全米一住みたいアメリカ・ポートランドの今』（委託者：日進市学び支援課）

●消費者教育講座『フェアトレード講座①』（委託者：日進市市民協働課）

●消費者生活啓発講座『家族で気を付けたい消費者生活啓発教室』（委託者：日進市市民協働課）

●下呂市小坂振興事務所『小坂地域連携プロジェクト（CCC）』（委託者：下呂市）

●子ども大学にっしん開催業務委託『大学連携事業「子ども大学にっしん」』（委託者：日進市学び支援課）

●大学へのエシカル消費の普及・啓発事業委託『エシカル消費普及・啓発についての企画立案・実施』（委託者：名古屋市）

●【大学提案事業】障害者週間展示『障害理解への関心を高めるための周知啓発』（委託者：日進市地域福祉課）

表彰等

●愛知県主催「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」研究員がチームPascoとして最優秀賞獲得

●愛知県愛知警察署より学生団体「tASUkeai」が感謝状授受

その他連携事業

●東邦ガス株式会社との連携
学生団体「エネAS」が、ガスエネルギー館にてイベントを企画運営

●株式会社ヤクルト東海との連携
学生団体「PERILLA：ポレラ」がエゴマ油を使ったレシピでヤクルト東海株式会社と一緒に調理

●アサヒ飲料株式会社
アサヒ飲料株式会社中部北陸本部が主催する「SDGs将来世代創造フォーラム2023」にプロジェクトチーム「サイクるdeエシカる」が参加

●株式会社マルワとの連携
学生有志が学内にて古紙を集め再生紙にするため、株式会社マルワに協力依頼

●愛知医科大学との連携
瀬戸コンソーシアム事業で有志学生が共同で企画・運営

●愛知県愛知警察署との連携
CCC学生団体「tASUkeai」が愛知警察署長から一日警察官を委嘱。長久手市・日進市在住の親子向けに防犯啓もう活動を実施

●社会福祉法人TUTTI・株式会社クラタペッパーとの連携
CCC有志団体「サイクるdeエシカる」が社会福祉法人TUTTIが販売するハーブカレーに、株式会社クラタペッパーのオーガニック胡椒を入れたレトルトカレーを企画販売

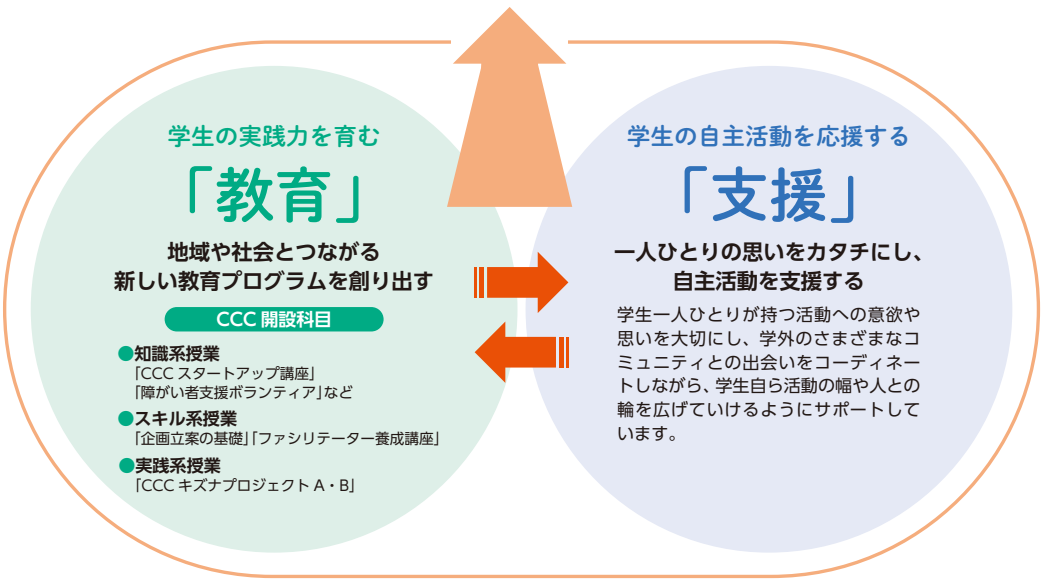
●tori8coffee（カフェ）・葵マルシェ（八百屋）との連携
学生団体「ロスゼロチーム」が、葵マルシェの廃棄予定だったかぼちゃを使用したパウンドケーキをtori8coffeeと企画・制作

メディア掲載情報

発行日	掲載紙	掲載内容
2023年 7 月 2 日	中日新聞（なごや東版）	かがやけ☆あいちサスティナ　キックオフ
2023年 8 月23日	中日新聞（なごや東版）	tASUkeai「一日警察官　防犯教室」
2023年 9 月28日	中日新聞（なごや東版）	ロスゼロチーム「まちのテラコヤ」
2023年10月 4 日	中日新聞（なごや東版）	きらきら☆したら「中日SDGsフェア」
2023年11月 3 日	中日新聞（豊田版）	そとそと「そとそとについて」
2023年11月 3 日	矢作新聞	そとそと「ジビエマルシェ」
2024年 1 月13日	中日新聞（県内版）	CCC「Shukutoku cafe」語り部（名古屋大学・岩倉様）
2024年 3 月27日	三河新報	アミーゴ「外国にルーツのある子どもたちへの読み聞かせ」
2024年 3 月27日	愛三時報	アミーゴ「外国にルーツのある子どもたちへの読み聞かせ」

3.1 CCCの学生育成ビジョン

広い視野と行動力、豊かな人間力を持ち、社会に貢献できる人材を育成



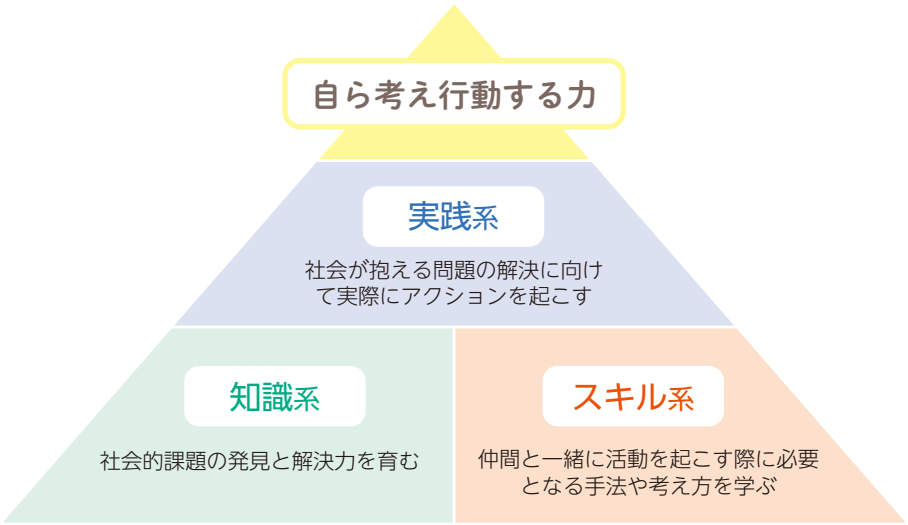
CCCは、学外のコミュニティとのボランティアや社会貢献をキーワードに、地域社会のニーズや思いをくみとり、地域の人々と共にさまざまな活動に取り組んでいます。「教育」と「支援」の２つを軸に、学生が「文化」「世代」「地域」「社会」の違いや多様な価値観に共感し、自己を成長させる「生きた学び」が得られるようにサポートしています。

こうした、「教育」と「支援」による柔軟な体制も整え、学生の意欲や思いを具体的な活動としてカタチにし、社会貢献できる人へと一人ひとり導いていきます。

3.2 教育（カリキュラム）

地域へ、未来へ、走り出す。
自ら考え行動する力を育みます。

CCCでは、地域と連携して取り組む社会貢献活動に、学生が段階的にチャレンジできるよう「CCC開設科目」を開講しています。ボランティアの基礎知識やさまざまな事例を学ぶことで社会的課題の発見と解決力を育む「知識系科目」、仲間と一緒に活動を起こす際に必要となる手法や考え方を学ぶ「スキル系科目」、社会が抱える問題の解決に向けて実際にアクションを起こすプロジェクト型の「実践系科目」など、多様な科目構成で実際の活動や将来に役立つ知識やスキルを修得します。



2023年度CCC開設科目一覧

知識系	CCCスタートアップ講座	梅原　聡 先生、岡田　守弘 先生
	ボランティア	梅原　聡 先生、岡田　守弘 先生
	障がい者支援ボランティア	荒賀　博志 先生
	まちづくりマーケティング	梅原　聡 先生
スキル系	企画立案の基礎	藤井　勉 先生
	ファシリテーター養成講座	梅原　聡 先生、岡田　守弘 先生
実践系	CCCキズナプロジェクトA	梅原　聡 先生
	CCCキズナプロジェクトB	岡田　守弘 先生

授業報告 ボランティア　梅原　聡 先生、岡田　守弘 先生

授業「ボランティア」はボランティア活動経験の有無にかかわらず、ボランティア活動や地域・社会貢献活動に関心がある学生、また「何かやってみたい」と考えている学生に向けて開講している入門科目です。授業においては、ボランティアに関する基本的な知識についてのレクチャーのほか、地域・社会が抱える課題解決のためにボランティア活動がどのような役割を担うことができるのかについてワークショップ形式で理解を深める機会をもちました。また複数の外部ゲスト講師を招くなどして実際の活動事例を紹介し、活動者の人生を形作るものとしてのボランティア活動の意義についても扱いました。受講生からは、地域や社会のため、そして自分のためなど、ボランティア活動が有する柔軟かつ多面的な「顔」に触れるなかで、受講生自身にとっての「ボランティア」を探り、意味付ける15回となった旨が受講後の感想として多く寄せられました。また授業が進むにつれて、ボランティア活動に参加した受講生の経験談が教室に集まるようになり、いつしか授業の場が他の受講生の第一歩を応援・歓迎し、それぞれの一歩から学び合うコミュニティともなっていたことはとても印象的です。教室で飛び交うリアリティを伴う言葉や、そのはつらつとした姿に、私自身も活力をいただいていました。

履修生の声

はじめはボランティア＝人のためにするものと考えていたのですが、授業においてボランティア活動に取り組む方々と出会ってその考え方が変わりました。話をしてくださった方々はとてもキラキラ輝いており、活動に誇りを持ち、また自信に満ち溢れていました。こうした出会いから、ボランティアは自分の経験や成長につながるものであり、自分のためになっていることが相手のためになっているのではないかと考えるようになりました。また授業中のグループワークにおいては、人は同じことを学んでも、感じることや考えることが異なるということを学び、人の持つ考え方や価値観は違っているからこそ面白いということを学びました。この授業を通して、まだ知らないことが世の中にはたくさんあり、今後も自分自身のために学び続けていきたいとも考えるようになりました。これからの人生で何かに悩んで立ち止まったときに支えてくれるのは周りにいる人だと思います。そのような仲間を見つけるためにもボランティアという新しいコミュニティに入ってみようと思いました。

文学部　2年　間宮　菜月

授業報告　キズナプロジェクトB　岡田　守弘 先生

この授業は、地域やNPOと連携し実際に活動をおこなうプロジェクト型の演習科目です。学生がプロジェクトの立案から振り返りまでの実践を通して学び、授業後も主体的な活動ができるような基礎力や実行力を身につけることを目標としています。さまざまな学部や学年の学生が履修するため、授業は学生同士のチーム作りから始まり、社会課題の情報収集や現地へのフィールドワークを経て、プロジェクトを組み立てます。2023年度は、特定非営利活動法人こどもNPO様と連携し、「名古屋市ひとり親家庭の子ども居場所づくり事業」に参加している子どもたちとの交流活動をおこないました。事前に関連情報を調べて知るだけでなく、学生たちがそれらを知ったことで得た印象や直接現地へ赴き見聞きすること、そして事前の印象と現状から感じたギャップも大切にしながら、授業を進めました。連携先の方々の社会課題に向き合う姿勢や価値観から、多くを学ぶ履修生の姿が印象的でした。

連携先の声

この度はCCCキズナプロジェクトBの協働相手として選定頂き、ありがとうございました。地域に密着しながら活動するNPO法人として、CCC・履修生の皆様と共に進められたことを大変嬉しく思っております。私たちは実践に没入するあまり、協働の機会を持てなかったり活動が伝わる言葉を持ち合わせていなかったりと、課題の多い日々を送っております。履修生の皆さんにお話をし、見学してもらい、話し合いを重ね、その度に仲間になっていく気持ちでした。子どもたちの置かれる現状や私たちの活動に対して、細やかなところまで気持ちを寄せてもらったことが、実際に企画実施する際に活きていたなと感じます。生活困窮状態に置かれる子どもたちにとって、活動の場や関わりを通じて感じる安心感や充実感が、この先の人生に大きな変化をもたらす一助になります。子どもたちの気持ちや言葉を正面から受け止め、対等に関わっていく姿は素晴らしいものがありました。

特定非営利活動法人こどもNPO副理事長　山田　恭平　様

履修生の声

学部も学年も異なる学生と一緒に企画をするのは初めてでした。しかし、同じ目標を持ってチームで話し合いを重ねたので、学生同士の仲を深められました。チームビルディングや連携団体についての事前学習、ペルソナ作り、事前訪問、そして実践という授業の流れであったからこそ、課題解決のための計画作りに深く取り組めたと思います。特に事前学習では、こどもNPOの職員の方々から「子どもたちの選択を尊重すること」や「子どもたちを取り巻く大人の存在が、良くも悪くも子どもの成長に影響していること」を学びました。職員の方のお話があったからこそ、私たちなりに子どもたちに寄り添いながら活動ができたと思います。今までボランティアに参加したことはありましたが、自分と向き合うことはありませんでした。しかし、この授業で他の学生と企画したり、実際に子どもたちと関わったりすることを通じて、初めて自分と向き合えたと感じました。誰かのために行動することが、自分が頑張れる理由になれましたし、意外とこのような活動に自分が向いているのだと気づきました。こうしたら喜んでくれるだろうな、私がこう動いたらチームの全員が円滑に動けるだろうなと、相手の立場に立ってみたり、相手を想像したりすることの重要さも学びました。

交流文化学部　3年　中村　智華

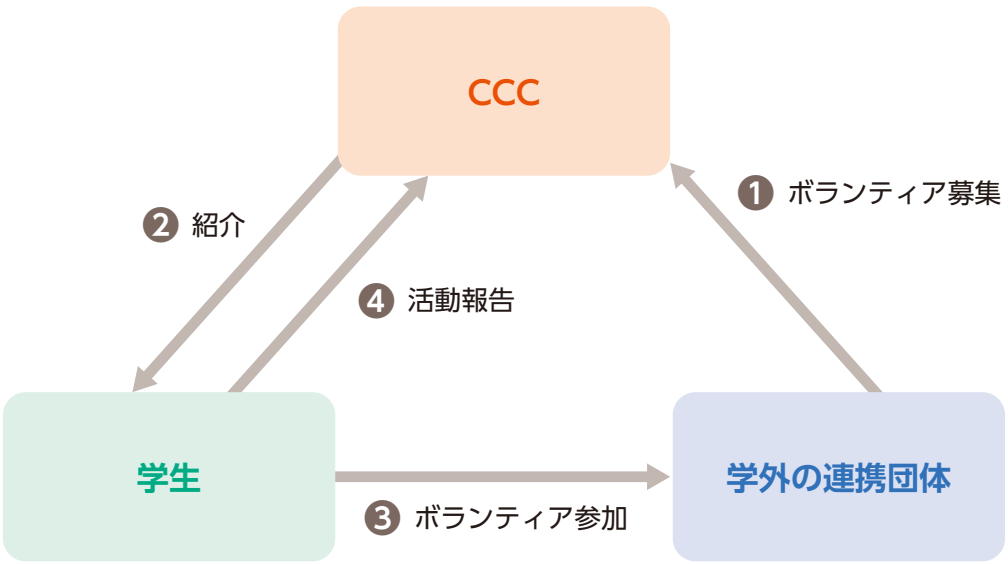
3.3 学生への支援

さまざまなコミュニティとの架け橋となり、学生が自ら活動を企画・実践できるようにサポートします。

CCCは、学生の力を必要としている地域・企業・自治体・NPO・NGO・教育機関との出会いをコーディネートし、学生の思いを具体的な活動へと結びつける橋渡しをしています。さらに、学生たちが活動中に困難な事態や課題に直面したとき、自分自身で答えを導き出せるように、考える力を引き出すサポートを大切にしています。

自主活動に励む学生は課題発見、企画・実践、振り返りによる問題解決へのサイクルを体験的に学ぶとともに、新たな出会いへ、新たなチャレンジへと人と人の輪や自分の可能性を大きく広げています。

ボランティアコーディネートの仕組み



それぞれのステップにあった活動や、学びたいことに合わせて選択しながら活動しています。

(1) 学生の単発ボランティアへの参加

自主活動に挑戦する学生の初めの一歩として、ボランティア活動への参加があります。

センターでは、ボランティア募集情報の収集、学生への紹介、学生スタッフらによる窓口相談などを通して、マッチングをおこなっています。

ボランティア募集情報は、センターでの掲示のほか、月に２回、全学生に発信しています。活動分野は、国際交流・協力、青少年育成、まちづくり、福祉、環境などさまざまです。2023年度は、延べ1,634人が活躍しました。

1 〉デイサービスセンターゴジカラ村での交流ボランティア

社会福祉法人愛知たいようの杜が運営するデイサービスセンターゴジカラ村でおこなわれているレクリエーションの時間にお伺いし、高齢の方と学生との交流をしています。ゲームや作品作りなどを一緒に取り組んだりお話をしたりと、温かくのんびりした楽しい時間を共に過ごさせて頂いています。

学生の声

ゴジカラ村様へのボランティアは週に一回のペースで参加させていただいています。このボランティアは自分のペースで気軽に参加できるボランティアだと思います。一人暮らしをしている自分にとって、利用者様とのおしゃべりは心地よく、利用者様の笑顔に毎回元気をもらっています。何度か続けていくにつれ、利用者様の小さな変化に気づいたり新しい発見をすることができたりと、毎回ボランティアに参加できることが楽しみです。

福祉貢献学部　１年　**井口　瑞葵**

2 〉まちかど保健室ボランティア

一般財団法人名古屋市療養サービス事業団が運営する「まちかど保健室」にお伺いし、そこでおこなわれている「まちかどカフェ」にて利用者さんとの交流をしています。そこには介護や医療の専門職の方が常駐しており、認知症の方やご家族、地域の方が気軽に集い、コーヒーを飲みながら認知症に関する理解を深めたり、悩みを共有したり場となっています。趣味の話をしたり、作成した作品を披露しあったりとあたたかい時間を過ごしています。

学生の声

「自分と異なる世代の方々と触れ合いたい」という思いから参加し、いつの間にかまちかど保健室はかけがえのない場所になっていました。利用者の方が私のことを名前で呼んでくださったり、前回お話しした内容について盛り上がれたりすると、彼らの一員になれたようで嬉しかったです。また、職員や利用者の方々との交流は、私の日常に好影響をもたらし、日々の原動力となりました。私の認知症についての知識レベルは簡単な学習をした程度であり、専門的な資格を持っているわけではありませんが、今後も一緒に話せてよかったと思っていただけるよう努めていきたいです。

創造表現学部　４年　**高谷　芽生**

3 〉佐久島黒壁運動ボランティア

佐久島は愛知県西尾市にある、豊かな自然と昔ながらの集落が広がる離島です。佐久島では潮風から家屋を守るために、壁を黒く塗る風習があります。黒い壁の家並みは「三河湾の黒真珠」と呼ばれており、島ならではの景観です。それを守るために、島内外のボランティアにより1年に1回修復活動が続けられており、本学の学生も参加をしました。一軒一軒に黒い塗料を塗り、島民の方のあたたかさや島の魅力を感じる時間となりました。

学生の声

地元の西尾市一色町でボランティア活動があることを知り、「地元に貢献したい」「黒壁塗りをやってみたい」という思いで参加しました。黒壁塗りは潮風から家を守るための活動だと初めて知り、自分の知らない地元の活動を知ることができました。人気の観光地の一つである佐久島の景観を維持するためには地元の人だけでなく、ボランティアなどの力を借りて、みんなで力を合わせて守っていくことが大切なのではないかなと思いました。佐久島の方たちが「ありがとうございました。お疲れ様でした。」とあたたかい言葉をかけてくださったり、活動終わりに佐久島産のご飯などを作ってくださったりして嬉しかったです。人のためになれたと感じることができ、参加してよかったと思います。心があたたまる活動でした。また参加したいです。

文学部　２年　**松原　一花**

4 〉ワールド・コラボ・フェスタ運営ボランティア

「ワールド・コラボ・フェスタ」は、国際交流、国際協力、多文化共生などがテーマのイベントです。持続可能な社会の実現をめざして互いに学び合い、思いを共有して、新たな一歩につなげる場となっています。参加した学生たちは、総合案内、ステージ進行のお手伝い、ワークショップのサポート、ブース出展などのさまざまな活動に取り組み、来場者の皆様や参加団体の方々と笑顔で交流を深めました。

URL https://www.aasa.ac.jp/live/interaction/008536.html

学生の声

私はスタンプラリー・抽選のブースに参加しました。ここへはたくさんの人が来るので、楽しんでもらえるよう、抽選できる回数を指で表すなどの様々な工夫をしました。ジェスチャーを使うことは、それを求められる方だけでなく、賑やかな環境下ではすべての人に有効に働くのだと気づきを得られました。いろいろな方が集まる場所だからこそ新たに気づけることがあり、これからの生活にも活かしていきたいと思いました。

交流文化学部　３年　**後藤　あい**

(2) 学生団体などによる学外団体との連携事業

ボランティア活動への「参加」に留まらず、同じ社会問題に共感する学生たちが集まり、課題解決に向け、自主的に活動しています。

CCCを基盤に自主活動をおこなっている学生団体を「CCC学生団体」とする、登録制度を設けています。その数は現在、約32団体。そのほとんどが、学生のみではなく、地域の市民団体・福祉施設・企業などと連携して活動しています。

CCC学生団体にはスタッフがアドバイザーとして就き、活動の「伴走者」としてサポートします。また、自分たちの体験を振り返るための自己点検報告書を共に作成し、支え合いながら活動を改善・継続できる仕組みを構築しています。

企業との連携

環境　東邦ガス株式会社×「エネAS」

東邦ガス株式会社が次世代教育への一環として展開しているガスエネルギー館にて、子どもたちに環境問題について楽しく学んでもらうことを目標に、子ども向けの学習イベントを実施しています。今年度は、2回開催。1回目は、環境省名古屋自然保護官事務所の方が藤前干潟の環境や生き物について解説した後に、学生企画の干潟の生態系ピラミッドを組み立て体験できるワークショップをおこないました。2回目は、館内のいたるところで、子どもたち向けに環境に関するクイズを出題。多くの来場者が、楽しそうにクイズに参加してくれました。

まちづくり　株式会社ヤクルト東海×「PERILLA：ポレラ」

株式会社ヤクルト東海と学生団体「PERILLA：ポレラ」がエゴマを使って考案した料理を一緒に調理し、ヤクルト東海様の公式SNSで紹介させていただきました。学生団体「PERILLA：ポレラ」は、岐阜県小坂町の特産であるエゴマを中心に活性化を目的に活動をする団体です。

これからも、ヤクルト東海様が掲げる「健康で楽しい生活づくり」に、健康食であるエゴマで新しいコラボレーションをおこなっていきたいと考えています。

URL　https://www.aasa.ac.jp/live/interaction/008420.html

企業との連携

青少年　カゴメ株式会社×「パスレル」

学生団体「パスレル」は大学内のフードドライブ、食品ロスに関する内容のSNS発信、子ども食堂の活動などをおこなっています。その活動の一環として、カゴメ株式会社から販売計画との乖離で発生した過剰在庫の野菜のポタージュを学生団体「パスレル」が頂き、豊田市の保見団地にて、団地に住む子どもたちに配る活動をおこないました。ポタージュは、かぼちゃ、とうもろこし、トマトなどのさまざまな種類があり、パンやお菓子と共に学生から直接手渡しをしました。子ども食堂を運営するNPO法人様からは「この一袋で栄養を取ることができるからありがたい」「ぜひ、またこのような機会があれば嬉しい」という声もお聞きしました。これからも、企業の方と手を取りながら活動していければ嬉しいです。

学生の声

私がこの活動をするきっかけとなったのは、多くの食料が廃棄されていること、食品ロスが多い一方で必要としている人への食料は少ないことを知り、学生が食品ロス削減のために何かできないかと考えたことです。そこで、3年前に学生団体「パスレル」を立ち上げました。私自身この活動をおこなう過程で、体験でしか得ることのできない学びがあるだけでなく、多くの方との出会いがありました。誰もが参加・実行できるようなフードドライブや教育、イベント、情報発信などの取り組みを多くの方がされており、一人ひとりが実行することこそが、フードロスを減らし、困っている人を助けるために大切であるということを学びました。

ビジネス学部　4年　村松　優

まちづくり　アサヒ飲料株式会社×SDGs

アサヒ飲料株式会社中部北陸本部が主催する、産官学連携によるWell-beingな未来を考える場の創出を目的とした「SDGs将来世代創造フォーラム2023」に参加しました。CCCからは「エシカル」をテーマにブースを出展しました。ブースでは、昨年度から力を入れているプロジェクト「サイクるdeエシカる」の紹介やエシカル消費の必要性を伝えました。エシカル消費やSDGsは少し堅苦しい部分もあり、消費者からは距離のあるものと捉えられがちですが、イベントを通して楽しく理解していただくきっかけとなりました。

学生の声

企業の方々が多くご参加されている中で、大学生としてできることを考えた一日でした。学生の強みとして、フットワークの軽さや縛られない柔軟な発想ができると、よく言われることではありますが、学生としてそのことを改めて強く感じました。また、自分の知らないところで技術革新が著しく進んでいることを実感し、産官学連携の可能性も感じました。

交流文化学部　4年　本田　早伽

URL　https://www.aasa.ac.jp/live/pursuit/008833.html

行政との連携

震災支援　長久手市×「なごやであそび隊」

学生団体なごやであそび隊は、東日本大震災で愛知県に避難されてきた幅広い世代の方々に「名古屋を第二のふるさと」と感じてもらえるような居場所づくりを目的に活動をしてきました。最近は、防災啓発活動に力を入れながら活動しています。今回は、活動の一つとして、長久手市の受託事業として「知ってる？東日本大震災」を開催しました。実際に東日本大震災の経験した学生から被害について伝えたり、非常時に役立つ知識を学んだりしました。

まちづくり　豊田市×「そとそと」

学生の声

そとそとは豊田市の魅力を発信している学生団体です。2021年度から豊田市で活動を始め、昨年度は豊田市青少年センター主管の若者によるまちづくり提案事業「WAKATTE」に採択され、助成金をいただきながら企画を実施しました。主な活動内容は二つです。第一に、豊田市の観光スポットや飲食店などを発信することで、訪れる人を増やし、地域を活性化させることです。観光パンフレットの発行、Instagramでの投稿などをおこないました。第二に、鹿や猪など捕獲鳥獣の肉や革の良さを広めることで、ジビエ利用を推進することです。活動のきっかけは、農作物被害を防ぐために駆除された野生鳥獣の約９割以上が廃棄されている現状を知ったことです。ジビエパスタのキッチンカー販売、鹿肉スパイスカレーの料理教室、鹿革×草木染め小物の製作・販売の三つをおこないました。今年度の活動を通して、学生一人では解決できない地域課題も、さまざまな人とアイデアを出し合い行動することで、解決への糸口が見つかることを実感しました。今後も豊田市へ積極的に足を運び、地域住民の困りごとに耳を傾け、メンバーの興味関心を活かした解決策を提案・実施していきたいです。

交流文化学部　３年　近藤　南帆

URL　https://www.aasa.ac.jp/live/interaction/008958.html

行政との連携

青少年　愛知警察署×「tASUkeai（たすけあい）」

学生団体tASUkeaiは、愛知警察署と連携しながら子ども向けの防犯教室や交通安全教室、また還付金詐欺防止の動画作成などをおこなっています。今年度は、一日警察官を委嘱され、日進市・長久手市の小学生親子に防犯に関する啓もう活動をおこないました。パトカーに乗って注意を促すアナウンスをおこなったり、子どもたちに子ども連れ去り防止の合言葉「つみきおに」を短い劇やクイズをして、わかりやすく伝えました。

URL　https://www.aasa.ac.jp/live/interaction/008334.html

まちづくり　名古屋市×「サイクるdeエシカる」チーム

名古屋市で推進している「倫理的消費（エシカル消費）の普及・啓発」をテーマに、愛知淑徳大学ではプロジェクトとして「サイクるdeエシカる」をおこないました。その一環として、エシカルなコラボレーション商品の販売と啓発をおこないました。この商品は、社会福祉法人TUTTI（トゥッティー）（障害者就労支援施設）の利用者様が作るハーブカレーと、株式会社クラタペッパー様（カンボジアで現地の方と一緒に胡椒作りをおこなう）の胡椒を組み合わせた商品を、プロジェクトチームが形にしました。

学生の声

エシカル消費と聞くと、広報や啓発活動、認証、販売などを特定の団体がおこなっているという、どこか遠い存在で他人事と感じる方も多くいらっしゃると思います。その中で「サイクるde エシカる」チームは、消費者としてだけでなく、エシカル消費を促すための仕組み作りに携われることが最大の魅力だと感じました。エシカル商品との出会い方は人それぞれだと思います。SNSや講義で興味を持ち、興味・関心だったエシカル商品が自分の生活にも取り入れられていく。それも立派なエシカル消費だと思いますが、そこで留まらず、商品に込められたストーリーを考えることも大切です。私はCCCでの活動を通して、エシカル商品の１つ１つには、多くの人々の想いが関わっていることを改めて気付かされました。今回のコラボレーションでは、２つの団体の方々から商品の魅力について直接お話を伺うことができました。その際に学んだことは、エシカル商品は遠い国や地域の誰かを助けるだけでなく、活動を支える人にとっても生きがいになるということです。温かく人々の想いを繋げられる消費活動はとても素敵なことであると学びました。

交流文化学部　4年　汪　雅雪

NPO・市民団体との連携

福祉　NPO法人じゃんぐるじむ×「しゅくぐる」

学生団体しゅくぐるは、NPO法人じゃんぐるじむ様と協力しながら、発達障がいがある子どもたちと交流し、楽しく一緒に遊びながら、子どもたちの発達が豊かなものになる手助けをしている団体です。言語聴覚士を目指す学生が中心となり、学びを深めています。

学生の声

子どもたちと過ごす中で感じたことは、コミュニケーションの奥深さ・大切さと、一人ひとり違うことの素晴らしさです。私たちは普段から無意識に、言葉以外も使って話したり聞いたりしています。例えば表情、身振り、行動、声色、触れるなどです。コミュニケーションは方法のうちのひとつに言葉を持っていますが、その本質は感情や考えを言葉を超えて相手と伝え合い、受け取り合うことだと思います。子どもたちがどんな方法で伝えているのか、どんな意味で受け取っているのか思いを巡らすことで自然とお互いのことを知ることでき、「あなた」と「わたし」の関係になっていくのだと感じました。また、子どもたちが自分なりの遊び方を見つけてゲームをしたり、それを見て楽しそうだと遊びに加わったりする姿がみられました。遊びを通して一人ひとりの発想の違いをお互いに認め合い、楽しんでいるとても素敵な場面に自然と笑顔になりました。私は一人ひとりが違うからこそコミュニケーションが生まれ、楽しいことや素敵なことも生まれていくのだと思います。この「違い」を皆で大切にしたいです。これからも、子どもたちの笑顔が溢れる居心地の良い場所を作っていけるよう活動していきます。

健康医療科学部　3年　近藤　朱莉

福祉　日本介助犬協会×「チームわんわん」

学生団体チームわんわんは、長久手市内にある全国唯一の施設「介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～」の皆様と一緒に、「介助犬使用者様と介助犬がより生きやすい社会」の実現や、介助犬の認知度拡大を目的に活動しています。

学生の声

昨年度をふまえ、学びと遊びの要素を組み合わせた介助犬パズルやトランプを新たに作成しました。理解を深めるツールとして年代を問わず大好評でした。また参加者間のみならず、他の参加者とメンバー間のコミュニケーションが生まれるきっかけにもなりました。活動に込める思いをいかに伝えるか試行錯誤の日々ですが、参加者とのコミュニケーションの大切さを再認識できた一年でした。今後も介助犬の輪を広げられるよう活動を続けていきます。

福祉貢献学部　3年　菊盛　諒子

国際　九番団地日本語教室「アウラ・ド・キューバ」

名古屋市港区にある地域日本語教室に日本語の先生としてボランティアに参加しています。教室には、ネパール、ベトナム、中国、ブラジルにルーツを持つ大人の方が参加されていて、日本語検定の合格を目指して日々勉強をされています。

学生の声

私が日本語教室ボランティアに行き始めたのは、新型コロナウイルス感染症が流行していた2年半前でした。日本語教室では、口の動きを真似してもらって発音の練習をするので、少しでも伝わるようにフェイスシールドを使用するなどの工夫をしていました。他にも、ボランティアメンバーと関わる中で、教え方など学ぶことがたくさんありました。また、学習者と毎週交流していく中で、授業に関連した内容で学習者の母国の文化や習慣について質問したり、異なる国々の方たちと議論したり、休憩時間には互いの近況を報告したりすることで親交が深まり、信頼関係が築かれていき、今では活気ある授業ができています。就職活動などで数カ月ぶりの参加になってしまっても、温かく迎えてもらえて大切な仲間ができたと改めて感じ2年半続けてきて良かったと思いました。

交流文化学部　3年　小川　采蘭

(3)【学内助成事業】チャレンジファンド

CCCでは、学生によるさまざまな自主活動を助成する「チャレンジファンド」を設けています。地域のニーズや思いに応える活動、社会的に意義の高い活動に対して、愛知淑徳大学後援会の協力を得て、資金面での助成と活動サポートプログラムの提供をおこなっています。

2023年度は、「スタートアップ部門（助成額上限５万円）」「一般部門（助成額上限10万円）」において、公開プレゼンテーション及び学内の教員たちによる審査の結果、９団体が採択され、それぞれの活動を展開しました。

2023年度チャレンジファンド採択団体一覧

※法人名省略

	団体名	活動内容	主な連携先
新規部門	NAO	工作などのワークショップを通じ、地域の子どもたちと仲を深めてコミュニティを作り上げることを目指し活動をする。	暮らせる図書館
新規部門	らぶ♡やお	子ども食堂などの「食」を通じて子どもたちの居場所づくりのお手伝いをする。	楽歩
一般部門	Fsus4	高齢者施設と障がい者施設に演奏しに行き、交流を通じてつながることで相互に理解を深める。	愛知たいようの杜 森孝しぜんかん
一般部門	エコのつぼみ	環境啓発活動に加え、里山保全を支援するために、ワークショップを企画・実施する。	モリビトの会
一般部門	ユニこまPlus＋	障がいがある方の服のリメイク活動と、生涯スポーツのボッチャ交流会をおこなう。	AJU自立の家 名古屋市トワイライトスクール
一般部門	アミーゴ	県内の外国にルーツのある児童を対象に多読活動、学習支援、就学前指導に取り組む。	シェイクハンズ 西尾市教育委員会
一般部門	そとそと	豊田市の観光スポットや、獣害の現状やジビエの活用方法を広めるべく魅力を発信。地域の方との交流を大切にしながら活動をする。	豊田市青少年センター
一般部門	きらきら☆したら	愛知県設楽町の魅力を伝えることを目標に、現地と交流しながらイベントなどを企画・実施する。	設楽町
一般部門	チームわんわん	小学校での授業やワークショップを通じて介助犬の認知度・理解拡充を図る。	日本介助犬協会

学生団体「NAO」

毎月１回以上、継続的にワークショップをおこなうことで、私たち大学生も徐々に西山地区の一員になれたと感じます。参加してくれる子どもたちはリピーターになってくれるので、大学生と交流する機会になることはもちろん、ワークショップに参加する子どもたち同士のコミュニティが築かれていることが嬉しいです。また見守る私たちも、子どもたちの成長を間近に感じることができ、保護者の方からも少し子どもから目を離して暮らせる図書館でゆっくり過ごすことができると好評を得ています。約１年間の活動でメンバーそれぞれの得意を活かしながら、子どもたちを楽しませることだけでなく、私たちも心から楽しむことができる居場所を見つけることができました。

人間情報学部　４年　夕部　蓮太

4 学生スタッフの活動

学生スタッフは、同じ学生という目線から、学生の持つ様々な思いを形にする重要な役割を担っています。

会話を通して、一人ひとりの個性を活かし、新たなチカラを共に発見するお手伝いをしています。

また、ボランティア紹介業務だけでなく自ら企画などもおこなっています。

2023年度　学生スタッフ

■ 長久手キャンパス

近藤　朱莉
(健康医療科学部３年)

山下　珠怜
(福祉貢献学部３年)

吉田　瑞希
(福祉貢献学部３年)

松原　一花
(文学部２年)

■ 星が丘キャンパス

中島　梨緒
(交流文化学部4年)

山本　羽奈
(交流文化学部4年)

後藤　あい
(交流文化学部3年)

石川　虎南海
(交流文化学部2年)

山﨑　日菜子
(交流文化学部2年)

こたつで交流会

留学生と交流しながら「留学生の国を知る」ことを目的に、イベントを開催しました。モンゴルからの留学生が母国の文化やお正月について紹介してくれました。日本とは違うモンゴルの正月に驚き、日本の正月を説明したところ、留学生も日本の正月に興味を持ち、「だるまは正月の飾り？どんな意味なの？」と質問を受けました。私たちも知らないことが多く、日本文化に詳しく知る良い機会になりました。また交流を通じて、海外や自国の文化を知っていきたいです。

交流文化学部　2年　山﨑　日菜子

SDGs勉強会

自分たちの活動がSDGsの何と繋がっているのかを確認する目的として、学生団体運動会（SDGs勉強会・交流会）を企画しました。運動会ではSDGsを学ぶ種目だけでなく、1年生にもSDGsに興味をもってもらえるようなクイズや神経衰弱をおこないました。当日は、楽しさの中に学びがある時間となりました。また、普段別々の団体で活動している学生同時が笑顔で話している様子をみて、この運動会を企画して良かったと感じました。これをきっかけに、今後の活動もより活発で盛り上がっていくといいなと思いました。

交流文化学部　3年　石川　虎南海

長久手学生団体交流会

CCCには多くの学生団体があり、それぞれ大切にしたいことを他の学生団体と共有したり、１年間の活動を振り返ったりする場を企画しました。一度立ち止まり、ワークショップをすることにより、団体の目的などを再確認することができました。他の学生団体と交わることによりそれぞれが良い刺激を受け、互いが互いを認め合うことにも繋がりました。私たち学生スタッフも学生団体のことを知るきっかけや活動するだけが私たちの財産ではなく、活動をした先で考えることや感じることにも大きな、価値があるのだと実感することができ、企画して良かったなと心から思うことができる会となりました。

福祉貢献学部　3年　吉田　瑞希

卒業する学生スタッフのコメント

CCCではさまざまな違いを持つ人と関わる事ができて自分の視野がとても広がりました。また、自分自身と興味関心が似ている仲間と出会えたことで、より深く学ぶことが出来ました。CCCで過ごした時間は私の大学生活の中でかけがえのない時間でした。これからは社会人としてCCCでの学びを活かし活躍していきたいと思います。

交流文化学部　4年　中島　梨緒

コロナ禍で何もできない時にCCCと出会い、私のやりたいことをCCCで叶えることができました。さらに同じ志を持った仲間とボランティアを通してぶつかりながらも同じ目標に向かって切磋琢磨することができました。この貴重な経験やつながりを活かして大学卒業後も地域や世界を見られる人になりたいです。

交流文化学部　4年　山本　羽奈

5 センター長より

2023年度 全体講評

コミュニティ・コラボレーションセンター
センター長　榎　裕美
（健康医療科学部　教授）

複数年に渡り猛威を振るった新型コロナウイルスが、2023年５月８日から５類感染症に移行され、世の中の様子は一変し、連携先である自治体、関連団体と共にCCCの活動が一気に動き出した１年だったと振り返ります。

学生団体の活動は、対面の活動を自粛していた期間が長かったことから、先輩から後輩への引継ぎがない、連携先の担当者の交代等、活動をしたい学生たちにとって不利益な条件が重なりました。しかしながら、CCC教職員が一丸となり学生たちをしっかりとサポートし、より良い方向に導いていくことができたと自負しております。

2023年度は、外部の方に本学にお越しいただき実施した活動も沢山あります。愛知警察署の一日警察官として実施した小学生親子への防犯教室、地域住民の皆様との交流の場であるshukutoku cafeの定期開催、12月に実施した「コラボメッセ」では、多くの学外の方にもご参加いただくイベントして、大盛況のうちに終えることができました。また、2024年元旦に発生した能登半島地震は、日本中が震撼したことと思いますが、すぐに学生たちから声があがり、学内で募金活動を行い被災地へ寄付をすることができました。CCCは、今後も学生の主体性を大切に、将来、日本をリードしていく人材となれるように、精一杯サポートしていきます。

地域の皆様、企業・団体の皆様、保護者の皆様、学内外の教職員の皆様に感謝申し上げ、今後もご指導賜れますようお願い申し上げます。

6

初めてボランティアを募集される方へ

当センターでは、ボランティア募集情報の取り扱いについて、「ボランティア情報の取り扱いに関する方針」を基本としています。

ボランティアを募集される場合は、まずはHPで方針をご確認いただき、お電話でご連絡ください。

URL　https://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/volunteer/01.html

2023年度　CCC運営委員

●委員長	榎　裕美	（健康医療科学部）
	三和義武	（文学部）
	佐藤好幸	（人間情報学部）
	西出隆紀	（心理学部）
	柳井貴士	（創造表現学部）
	古川洋子	（福祉貢献学部）
	二文字屋脩	（交流文化学部）
	潘　卉	（ビジネス学部）
	大門ゴーフ裕子	（グローバル・コミュニケーション学部）
	梅原　聡	（コミュニティ・コラボレーションセンター）
	岡田守弘	（コミュニティ・コラボレーションセンター）

スタッフ

●長久手キャンパス	●星が丘キャンパス
山本　愛	秋田有加里
石塚千夏	日比野　愛
藤本涼子	伊藤菜々子

愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター

長久手キャンパス
〒480-1197
愛知県長久手市片平二丁目9
TEL（0561）62-4111（代表）

星が丘キャンパス
〒464-8671
名古屋市千種区桜が丘 23
TEL（052）781-1151（代表）

2023年度CCC活動報告書
発　行：愛知淑徳大学
　　コミュニティ・コラボレーションセンター